

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195100060		
法人名	株式会社日本キャリアサービス		
事業所名	グループホームだんらん紋別みどり館		
所在地	紋別市緑町4丁目1番5号		
自己評価作成日	平成26年8月25日	評価結果市町村受理日	平成26年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、開設3年目になり町内会、地域との関わりが、少しずつ増え、町内会で行われる野遊会・楽老長寿の会に参加している他、神社のお祭りには、子供会の獅子舞が来てくれています。又、ホームでは、月1回のレクリエーション(お花見・公的施設の見学・食事会など)外出の機会を設けている他、行事としては、焼き肉パーティ・敬老会・忘年会 他 餅つき・そば打ち実演食事会と、ご家族も参加して頂けるものも行き、利用者が、楽しみのある生活を継続していけるように支援しています。日常生活では、時間を基準とせず、利用者本位、利用者中心のケアを大切に、可能な限り柔軟に対応するように、努めています。又、自立支援・身体能力の維持 向上に努め日々の家事仕事(食事の支度・片付け・洗濯物の片付け・掃除・畑仕事・・・)、リハビリ体操、散歩など、利用者一人ひとりができることを、職員と一緒に、無理せず毎日行なって行けるように支援し、生活意欲の向上を、図っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL index.php?action_kouhvou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0195100060

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成26年9月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

紋別市内に法人の二つめのグループホームとして緑町地区の閑静な住宅街に開設しています。施設長、管理者、職員は2事業所共通の理念「いつも笑顔がはじける信頼の我が家だんらん」をケアの基本に利用者だけではなく共に笑顔でいられるようにと努めています。時間を決めて動くのではなく利用者の個性を大切に介護を心がけ、毎月のレクリエーションや外出機会を設ける他、家族や地域の方が一緒に集える催しを開催し気分転換や楽しみ、コミュニケーションの糸口にもなっています。今年度利用者の身体能力の低下防止、健康管理に力を注ぎ、リハビリ体操や利用者一人ひとりの能力を引き出し、自分の出来ることはやって貰う支援を職員と一緒に、機能維持や意欲向上の充実に役立てています。又、地域との交流も積極的に行われており、町内会行事等への参加や中学生の職業体験を受け入れ、子供達の学習機会を提供すると共に、利用者が子供達との関わりを通じて活力ある生活に繋がっています。共有空間は採光良く、広々と開放感のある造りで穏やかでのどかなゆったりした時間が流れており、我が家のようにアットホームな事業所になっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの理念は、グループホームの意義を全員で確認し、ホームのあり方を理念としたものです。職員全員が参加し、作り上げた理念として、利用者様との関係性を、大切にしたい理念となっています。	理念はリビング等の目に付くところに掲示し、会議の中で振り返りや確認をしながら、常に職員は意識したケアの実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(野遊会・敬老会)に参加させて頂き、地域交流を図っている。又ご近所の方に、積極的に御挨拶などを心掛けていてご近所の方が収穫した野菜を頂いたりもしている。	町内会に加入し、町内会行事や事業所行事の参加を通じて相互交流に努めています。そば打ちボランティアの実演会や中学生の体験学習の場を提供し、利用者の活力ある生活に繋がっています。今後更に地域交流の充実を目指しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献としてボランティア・中学生の体験学習の受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で取り上げられた内容については、貴重な意見として捉え、改善が必要な事については、改善しサービスの向上に、努めている。	利用者、家族、近隣住民、民生委員、認知症知見者、行政担当者の参加を得て、会議を年6回開催し活動報告等で活発な話し合いが行われ、サービス向上に活かしています。議事録は欠席メンバーや全家族に配布し、職員は閲覧にて共有を図っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月当ホームの利用状況について報告をおこなっている他、不明な点は、電話や出向くなどして意見の調整をしている。	行政とは主に施設長が連絡、相談、情報や意見交換を行っています。又、運営推進会議への参加等で関係構築に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、夜8時～翌朝7時までは、施錠を行っているがそれ以外の身体拘束は、行っていない。センサーマット使用については、カンファレンスで、本人・家族に説明、同意をした上で、書類に署名・捺印をもらい安全確保に努めている。	管理者、職員は身体拘束禁止事項について日常業務や会議の中で理解に努め、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいます。利用者の安全確保のためにカンファレンスで家族と話し合いを持ち、理解と協力を得ながら取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者に対する虐待が、見逃される事がない様に、十分注意を払い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、管理者、職員は、内容を周知必要時、ご家族等に助言できる体制をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、ホーム長・管理者・ご本人・ご家族が顔を合わせる中契約書の内容を説明している。特に利用料や起こりうるリスクについては、詳しく説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が積極的に意見を発信できるように、面会時声をかけホームでの出来事をお話するようにしている。又ご家族からの要望に対しフロア会議で検討し出来る範囲で実践運営に反映させている。	運営推進会議や面会時に状況報告と意見、要望を聞く機会としている他、月1回、管理者の家庭訪問や利用者、家族が参加するサービス担当者会議を通じて意見、要望を出して貰えるよう配慮し運営に活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回フロア会議を行い、意見を聞くようにしている。又日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ問いかけたり、聞き出したりしている。	施設長、管理者は日常業務時や概ね月1回開催しているフロア会議で意見を聞き運営に反映させています。職員それぞれが個人目標を設定し、1年の柱として取り組むと共に本社の社長による個人面接が1年に1回実施されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に、一回本社の個別面接があり、職員の意見、要望を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で行われる、研修会には、職員が交代で行けるように配慮しその後の研修報告は、職員全員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	紋別地区の同業者が集まる集いが、行われたり、勉強会や連携会議が、行われている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の相談体制として、ご本人とご家族に来所して頂き、見学説明をし理解をして頂く事に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の取り組み、苦労、サービスの利用状況等を含め、経緯についてゆっくり話し合いを持つようにしている。話をきくことにより落ち着いて頂き次の段階の相談につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族によるこれまでの取り組みを確認し、地域の福祉サービスの紹介や説明を行いその方に適したサービスの助言をするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が言葉に出来ない部分を見つけ出し自尊心に配慮しながら、毎日安心して過ごせるよう支援し家族に近い関係を築けるよう日々努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子をご家族に伝え本人にとって最良の支援が、出来るように家族と職員が、連携している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みの美容室に出かけたり、思い出のある場所に出かけたりしている。又利用者様のお友達をホームの行事に招いたりしている。	本人が今まで通っていた馴染みの店への買い物や美容室、公園等の思い出の場所へ出掛けたり、事業所行事に友人を招くなど、これまで大切にしてきた関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、職員が、間に入り利用者同志交流をもてるように、配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移設、入院で退所されても機会を作り様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用することで、本人やご家族の意向を把握し、本人本位の生活の実現に向け努力している。	利用者一人ひとりの思いや意向はセンター方式を活用したアセスメントや日頃の関わりの中で話を聞き把握に努め、笑顔が見られる対応に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用することで、一人ひとりの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握、その中から残存機能や心身状態の変化をくみとれるような支援をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には、日頃の関わりから意見を聞き取り、介護計画に反映させている。またモニタリングによりサービス評価を行い、再アセスメントとすることで課題を抽出し、現状に即した介護計画に努めている。	利用者、家族が参加するサービス担当者会議やモニタリング、再アセスメントを通じて現状に即した介護計画を作成しています。サービスが的確に行われるよう介護日誌に記入欄を設け支援しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を通して情報を共有し より良い支援が、出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等の必要な支援を柔軟に対応し、個々の満足度を高めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公的施設の利用や催し物参加の等の支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族が、納得したかかりつけ医と なっている。受診の際の情報は、ご家族にも報告している。また必要に応じてご家族にも同行して頂いている。	利用者・家族の希望するかかりつけ医に通院し、家族の協力が難しいときには受診支援を行います。受診後に家族に報告し情報を共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人が、入院した時は、2・3日に1回の面会や洗濯物の世話ご家族への病状報告などこまめに支援している。又利用者情報提供票を活用し医療との連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、将来起こりうる事態予測をつけ、事業所ができる最大限のケアについて説明をおこなっている。さらに訪問看護やかかりつけ医と連携し、早期発見 早期治療につとめている。	今まで対象となる利用者はいませんが、重度化について意思確認書作成、契約時に説明をして必要な場合取り交わします。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っており そのうちの1回は、ご家族・地域の方・消防の方をまじえた訓練を行っている。又地震・水災害に関しては、防災マニュアルを作成し避難場所など全員で確認している。	年2回昼間・夜間想定での避難訓練を実施しています。通報訓練も職員全員経験しており次回の訓練に備えています。	10月に避難訓練を実施予定ですが、地域住民に協力要請できる体制の構築や停電・水害等災害の備えも期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関わる問題や個人情報に関わる問題については、慎重に取り扱い管理している。公開している個人情報に関しては、ご本人、ご家族、事業者間で、同意書が交わされている。	一人ひとりの利用者の尊厳を大切にすること、言葉かけに気をつける事、個人情報の保護に注意して取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員と馴染みの関係を通じて互いに話しやすい関係を構築している。又利用者とのコミュニケーションをとる為の時間を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間にとらわれることなく、利用者が、本人の意思で一日を過ごせるように、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室に出かけたり、美容室に来ていただいたりしている。又起床時着る服を自己選択してもらえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食事を伺うようにして、その方にあった形態の食事を提供・旬の物を取り入れた食事を提供し季節感が楽しめるように支援している。また調理の下ごしらえ、片づけを職員と一緒にしている。	利用者の好みを聞き取り、食材の皮むきや下ごしらえを手伝い後片付けをする等楽しく食事が出来るよう取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取については、記録に残し、食事摂取については、本人の状態に合わせて記録に残している。又各利用者に合った食事の提供やそれぞれのリズムで、食事が摂れる様に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、ご自分でしてもらい汚れが、落ちていない場合は、職員が、介助を行っている。又歯の無い方や必要な方には、舌ブラシを使用していただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで、排泄出来るようにしている。必要な方には、おむつを使用しているが、不快な思いをさせないように、配慮している。	排泄パターンからトイレ誘導を促し、自立排泄を心がけ羞恥心や不安のない配慮したケアを努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や、及ぼす影響について、理解するとともに、医療職と協力して服薬や、食事 水分補給からのアプローチにより便秘予防 改善に取り組んでいる。又個々に合せた水分補給をしている(ヤクルト・牛乳など)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯を、ホームで、かり設定しているが、ご本人の体調や意志により入浴して頂いている。入浴拒否がある時は、柔軟に対応している。	利用者の希望に沿って週2回以上入浴支援を行っています。拒否や体調が悪い場合は声かけて清拭・足浴へ移行するなど個々の状態に配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後から1時間ほど、休息(昼寝)の時間を、設けている。又ご本人のその日の状態や変化に応じて休息できるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時処方箋を確認、院外薬局の職員が、薬を配達してくれる際、説明を受けている他 くすりの情報をまとめた資料を用意し回覧している。又服薬支援時は、間違えがない様に、2名で必ず声出し確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の生活を通して利用者全員が、ご自分の出来ること、又 職員と一緒に楽しみながら行われる活動を、継続していけるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族に、協力して頂いて、本人の希望の場所へ外出したり、職員と一緒に花見などに出かけている。又、地域の行事にも可能な限り参加している。	日常的に散歩や買い物、ガーデニングを行っています。チューリップ・ラベンダー公園へドライブに出かけたり、他グループホームのお祭りや町内会行事等、積極的に外出の機会を設けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は、個人で管理して頂いているが、持参金額は、確認している。そのほかの方は、事務所管理とし必要な時に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により対応できるようにしている。電話の使用は、自由であり、ご本人が、電話の使い方がわからない時は、職員が、ボタンを操作するなどの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や、観葉植物、壁には、季節感のある小物を飾るなどして、居心地良く過ごせるようにしている。	南向きの居間は明るく日中はレースのカーテンで陽を遮り、窓を開けて換気をしたりと配慮されています。利用者の外出時や行事での写真を壁に飾り居心地よく過ごせるよう努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、ソファを複数設置し思い思いに過ごせるようにしている。又ダイニングでは、音楽を聴けるようにしており、中庭には、ベンチを置くなど工夫している。又畑に、野菜を植えたりプランターに花を植えたり入居者が、参加できるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウトについては、安全性を重視し、ご本人とご家族に任せている。持ち込む者についてもなるべくご本人と馴染みの深いものをお願いしている。	利用者が持ち込んだベット・タンス・仏壇等職員とレイアウトして居心地のよい空間を構成するよう努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様にわかりやすいように、案内板などを付け、なるべくできる部分を増やせるように工夫している。		